

平成 19 年度事業報告

平成 19 年 4 月 1 日から平成 20 年 3 月 31 日まで

1. 総会の開催

(1)平成 19 年度通常総会を次のとおり開催した。

①開催日時：平成 19 年 5 月 23 日（水）14:00～15:00

②場 所：東京工業大学百年記念館

(2)平成 19 年度評議員会を次のとおり開催した。

①開催日時：平成 19 年 5 月 23 日（水）12:30～13:30

②場 所：東京工業大学百年記念館

2. 会員状況（平成 20 年 3 月 31 日現在）

名誉会員	14名	平成19年3月末と同数
正会員	1,153名	平成19年3月末より32名減
学生会員	17名	平成19年3月末より3名減
団体会員	131所 134口	平成19年3月末より26所30口減
賛助会員	129社 155口	平成19年3月末より2社2口増

3. 調査・研究の実施

(1)研究部会

・研究部会に次の分科会を設け、調査研究活動を行った

- | | |
|-----------------|----------------|
| ①遮音分科会 | ②床衝撃音分科会 |
| ③環境騒音振動行政分科会 | ④騒音伝搬分科会 |
| ⑤不思議音分科会 | ⑥低周波音分科会 |
| ⑦アクティブコントロール分科会 | ⑧サウンドアメニティ分科会 |
| ⑨騒音ラベリング分科会 | ⑩環境振動評価分科会 |
| ⑪道路交通騒音等分科会 | ⑫設備機器発生音測定法分科会 |
| ⑬道路交通振動予測式作成分科会 | |

・分科会報告会を次のとおり開催した。

「床衝撃音をめぐる最近の話題－乾式二重床・ゴムボール衝撃源－」

担当：床衝撃音分科会

日時：平成 20 年 2 月 20 日（水）13:00～17:30

場所：家庭クラブ会館 ホール

(2)平成 19(2007)年春季研究発表会の開催

平成 19 年 4 月 26 日に（独）産業技術総合研究所臨海副都心センターにおいて、オーガナイズドセッションによる研究発表会を開催し、講演論文集を刊行した。

セッションを開催した分科会は、次のとおり。

- ①設備機器発生騒音測定法分科会
- ②アクティブコントロール分科会
- ③サウンドアメニティ分科会
- ④道路交通振動予測式作成分科会

発表講演は、次のとおり。

- ・基調講演論文：4 件
- ・招待講演論文：2 件
- ・一般講演論文：22 件
- ・ワークショップ「サウンドアメニティに関するワークショップ」

(3)平成 19(2007)年秋季研究発表会の開催

平成 19 年 9 月 12, 13 日に中央大学理工学部後楽園キャンパスにおいて、JMAC（日本モーダル解析協議会）と研究発表会を同時開催し、講演論文集を刊行した。

○発表講演

- ・一般講演論文（INCE/J）：50 件
- ・一般講演論文（JMAC）：8 件
- ・一般講演論文（JMAC とのジョイントセッション）：4 件

○特別講演

- ①「遅れに強い通勤電車ダイヤグラムを考える」
中央大学理工学部 学部長 田口 東氏
- ②「自動車産業における仮想開発への挑戦－その現状と将来の方向－」
デジタルプロセス（株） 代表取締役社長 間瀬 俊明氏
- ③「機械製品において音質がもたらす経済的付加価値」
九州大学大学院芸術工学研究院 音響部門 助教 高田 正幸氏

(4)委託調査

環境省から次の調査研究業務について受託した。

- ①低周波音普及啓発に関する検討調査業務
- ②騒音評価手法及び規制手法等検討調査業務
- ③振動評価手法及び規制手法に関する調査検討業務
- ④騒音・振動による住民反応（不快感）に関する社会調査業務

4. 会誌、技術報告、学術書の刊行

(1) 「騒音制御」31巻2号～32巻1号の6冊を隔月に発行し、会員に配布した。
1号あたりの平均ページ数は、本文78ページで、次の特集を企画実施した。

- ①31巻2号「航空機騒音に対する体系的な取り組み」
- ②31巻3号「音の作用と活用」
- ③31巻4号「数値解析の現状と将来展望」
- ④31巻5号「乗り物の音・振動に関わる快適性」
- ⑤31巻6号「エネルギーベースの評価指標の効果と限界」
- ⑥32巻1号「騒音を源から断つ」

(2) 「騒音制御用語事典」等の出版準備

「騒音制御用語事典」の出版に向けて原稿の最終調整を行った。また、「お話しシリーズ（仮題）」については、基礎編、バリアフリー編の原稿が最終調整に入り、イラスト、写真等を残して完成の段階に入った。

5. 講習会、講演会、展示会の実施

(1) 技術講習会の開催

平成19年度は、次のとおり技術講習会を開催した。

- ①第63回技術講習会を平成19年6月6、7日に”東京工業大百年記念館”で開催した。
テーマ「騒音・振動技術の基礎と測定実習」
- ②第64回技術講習会を平成19年7月19日に”エルおおさか”にて開催した。
テーマ「騒音規制の手引」
- ③第65回技術講習会を平成19年11月8、9日に”家庭クラブ会館”にて開催した。
テーマ「騒音対策の基礎と考え方」

(2) 特別講演会の開催

平成19年5月23日に開催された平成19年度通常総会において、次のとおり特別講演会を開催した。

- ・「騒音振動行政の現状と課題」
環境省 水・大気環境局大気生活環境室 内藤 克彦氏

- ・「サイレント楽器と音源技術」
ヤマハ（株） 坂間 真雄氏

(3) 展示会の開催

平成19(2007)年秋季研究発表会の会場において、カタログ、材料、機器の展示を行った。

6. 国内外の学会・協会との交流

(1) I-INCE 加盟団体としてその活動に協力するとともに、ICA、WESPAC、INCE/USA 等と情報交換を行うとともに、次の活動を行った。

- ① 2008 年開催予定の第 13 回低周波音と振動国際会議(13th International Conference on Low Frequency Noise and Vibration and its Control)について後援することとした。
- ② 2011 年開催予定の inter-noise2011 を日本で開催できるよう、inter-noise2007 で誘致活動を行った。

(2) 他学会が開催する行事に対し、共催、協賛等により開催に協力した。

- ・ (社) 日本機械学会 一事例に学ぶ振動・騒音トラブルの予防と対策他
 - ・ (社) 日本音響学会 「スペクトル解析と情報計測の基礎」他
 - ・ (財) 日本自動車研究所 「道路交通騒音低減のための総合的取り組み」
- その他「(社) 日本建築学会」「日本リスク研究学会」等

7. 業績の表彰、認定技士の資格認定等

(1) 守田栄論文賞

守田栄論文賞は、騒音、振動、音環境に関し学術及び技術の進展に貢献するところが大きい研究業績を本学会誌に発表した名誉会員、正会員に贈るもので、平成 19 年度守田栄論文賞受賞者は、次の会員に決定した。

「差分法を用いた台車騒音に対する逆 L 型防音壁の遮蔽効果の解析」

- ・ 廣江正明 ((財) 小林理学研究所)
- ・ 加来治郎 ((財) 小林理学研究所)

(2) 研究功績賞

研究功績賞は、騒音、振動、音環境に関し学術上及び技術上顕著な功績があると認められた名誉会員、正会員に贈るもので、平成 19 年度研究功績賞受賞者は、次の会員に決定した。

- ・ 赤松 克児 (機械音響研究所)
機械騒音及び振動にかかる長年の調査研究及び学会活動への貢献
- ・ 香野 俊一 (東北文化学園大学)
環境騒音評価を始め音響工学にかかる長年の調査研究及び学会活動への貢献
- ・ 山田 伸志 (放送大学山梨学習センター)
低周波音にかかる評価・解析等の長年の調査研究及び学会活動への貢献

(3)環境デザイン賞

環境デザイン賞は、公募により推薦された環境デザイン業績の中から、音・振動環境の改善に顕著な貢献があると認められたものを選定して贈るもので、平成19年度環境デザイン賞は、次のとおり決定した。

対象事業：福岡市営地下鉄七隈線における良好な音環境づくりを目指した一連の取り組み

受賞者：福岡市交通局

(4)研究奨励賞

研究奨励賞は、本学会の研究発表会で優れた講演発表を行った新進の研究者、技術者に贈るもので、平成19年度研究奨励賞受賞者は、次の方に決定した。

- ・伊藤 和也（労働安全衛生総合研究所）
「地盤環境振動の物理モデル化と振動遮断壁の振動低減効果について」
- ・上田 麻理（九州大学）
「視覚障害者が考える街頭宣伝放送の適切な音量について」
- ・小林 朋幸（新潟大学）
「実用化を目指した音響的診断を用いた排水性舗装の健全度診断について」
- ・服部 康章（神奈川大学）
「気流発生源データとしての表面変動圧測定について」
- ・山口 晃治（九州大学）
「盛土道路に面する地域における戸建て住宅群による道路交通騒音減衰量の予測」

(5)認定技士の資格認定

（社）日本騒音制御工学会認定技士資格制度に基づき、次の方を認定した。

- ・平松 友孝（大成建設（株））

8. 規程等の制定および改正

今後実施される公益法人改革に対応できるよう、規程類の整備を積極的に行った。

- ・会員規程の一部改正
- ・名誉会員推薦規程の一部改正
- ・基金に関する規則の一部改正
- ・組織、給与などの事務処理手続等の一部改正

9. 公益法人制度改革

「公益法人制度改革関連三法」に基づき、当学会は平成 20 年 12 月より民法上の特例法人となり、5 年以内に新公益法人または一般法人への移行を選択しなければならない。そこで、平成 22 年度を目途に新公益法人として登録するために、研修会の開催、環境省公益法人行政担当者研修への参加などにより、移行手続きについての資料収集と検討を行った。

- ・公益法人制度改革に向けての研修会：平成 19 年 8 月 22 日開催
講 師：（財）公益法人協会
参加者：騒音制御工学会、大気環境学会、においかおり環境学会、
（オブザーバ 環境省）
- ・環境省公益法人行政担当者研修：平成 20 年 2 月 28 日開催
場 所：環境省講堂
参加者：堀江総務理事、丸川事務局長

10. 事務所の移転

学会の創立以来、国分寺市にあった学会事務所を平成 19 年 7 月 13 日に東京都千代田区麴町に移転した。

新事務所には、大・小の会議室を併設しており、各種部会、委員会、分科会等に活用している。

新事務所所在地

〒102-0083 東京都千代田区麴町 3-12-6 麴町グリーンビル 2F

電話 03-5213-9797

11. その他

(1) 認定技士活動推進委員会

認定技士の制度を英文で紹介する記事をホームページに掲載した。また、認定技士制度の普及を図るために、アジア地域の学会等が設ける同様な制度、若手を育成する CPD 制度等を検討すると共に、英文の認定証の準備などを行った。

(2) 広報・普及事業

ホームページを充実し、学会活動や情報公開について公益法人にふさわしい内容とした。また、主催・共催事業や部会・委員会活動の開催状況等について、会員への周知を行った。